

課題解決型高度医療人材養成プログラム

H 2 9 年度

健康長寿を育む歯学教育

コンソーシアム

シラバス



# コンソーシアムの構成

コア科目	
	授業時間数
摂食嚥下のメカニズム	3
長寿を支える硬組織バイオロジー	3
異分野融合型先端歯学・歯科医療	3
テイラード・コミュニケーション概論	3
地域連携と摂食支援	3
	15

## コア科目

長寿口腔健康科学コース (医科歯科大)	
コース全体の単位数: 2	
	授業時間数
摂食嚥下のメカニズム	3
長寿を支える硬組織バイオロジー	3
アドバンス病態科学	3
健康長寿の医療政策学・経済学	3
異分野融合型先端歯学・歯科医療	3
テイラード・コミュニケーション概論	3
地域連携と摂食支援	3
在宅における摂食嚥下評価	6
地域包括ケアシステム論	3
	30

異分野連携イノベティブ歯学展開コース (東北大学)	
コース全体の単位数: 2	
	授業時間数
摂食嚥下のメカニズム	3
長寿を支える硬組織バイオロジー	3
異分野融合型先端歯学・歯科医療	3
テイラード・コミュニケーション概論	3
地域連携と摂食支援	3
口腔から始まる再生医療	3
歯学発の医療機器・技術イノベーション	3
口腔が支える食と健康	3
異業種連携で進化する口腔ケア・リハビリテーション	3
社会と医療を繋ぐ歯科情報倫理	3
	30

口腔機能管理学コース (新潟大学)	
コース全体の単位数: 2	
	授業時間数
長寿を支える硬組織バイオロジー	3
テイラード・コミュニケーション概論	3
摂食嚥下のメカニズム	3
地域協働と他職種連携	3
口腔環境の変化と対応	3
加齢・発育と口腔機能管理	3
口腔機能の変化とその対応	3
口腔リハビリテーション	3
異分野融合型先端歯学・歯科医療	3
地域連携と摂食支援	3
	30

地域社会に学ぶ新たな歯科医療 プロフェッショナルコース (東京歯科大学)	
コース全体の単位数: 2	
	授業時間数
実践コミュニケーションと臨床倫理	3
摂食嚥下のメカニズム	3
長寿を支える硬組織バイオロジー	3
テイラード・コミュニケーション概論	3
臨床社会歯科学	3
内科症候学(生体制御機能)	3
異分野融合型先端歯学・歯科医療	3
地域連携と摂食支援	3
口腔機能と生体制御	6
歯科患者の全身異常と初期救急対応	3
	30

地域連携ケアコース (日本歯科大学)	
コース全体の単位数: 2	
	授業時間数
摂食嚥下のメカニズム	3
長寿を支える硬組織バイオロジー	3
テイラード・コミュニケーション概論	3
摂食機能の発達と障害	3
老年症候群に対する歯科の関わり	3
異分野融合型先端歯学・歯科医療	3
多職種協働に必要なコミュニケーション	3
栄養の評価と指導	3
地域連携と摂食支援	6
	30

### コア科目+大学別科目



# 健康長寿を育む歯学教育プログラム



東京大学高齢社会総合研究機構  
在宅医療学拠点

新潟市社会福祉施設

日本歯科大学  
口腔リハビリテーション多摩クリニック

## H29年度 各大学 コア科目実施日

日 程		授業題目	授業種別	大学名	担当教員
11月24日(金)	13:30-16:30	長寿を支える硬組織バイオロジー	コア科目	東医歯大	中島・井関
10月10日(火)	8:50-10:20	異分野融合型先端歯学・歯科医療	コア科目	東北大	佐々木
10月17日(火)	8:50-10:20	異分野融合型先端歯学・歯科医療	コア科目	東北大	高橋
1月26日(金)	13:30-16:30	摂食嚥下のメカニズム	コア科目	新潟大	井上
10/5,12,19,26(木)	3限	テイラード・コミュニケーション概論	コア科目	東歯大	
8月24日(木)	16:40-18:00	地域連携と摂食支援①	コア科目	日歯大	高橋
8月25日(金)	16:40-18:00	地域連携と摂食支援②	コア科目	日歯大	菊谷

## H29年度 各大学 授業日程

### 【東京医科歯科大学 長寿口腔健康科学コース】

コア科目・大学別科目 授業日程

日 程		授業題目	授業種別	大学名	担当教員
11月24日(金)	13:30-16:30	長寿を支える硬組織バイオロジー	コア科目	東医歯大	中島・井関
12月1日(金)	13:30-16:30	地域包括ケアシステム論	独自科目	東医歯大	東大・飯島
1月12日(金)	13:30-16:30	異分野融合型先端歯学・歯科医療	コア科目	東北大	東北大講師
1月26日(金)	13:30-16:30	摂食嚥下のメカニズム	コア科目	新潟大	新潟大講師
2月2日(金)	13:30-16:30	在宅における摂食嚥下評価①	独自科目	東医歯大	戸原
2月16日(金)	13:30-16:30	在宅における摂食嚥下評価②	独自科目	東医歯大	戸原
2月23日(金)	13:30-16:30	健康長寿の医療政策学・経済学	独自科目	東医歯大	川淵
3月2日(金)	13:30-16:30	テイラード・コミュニケーション概論	コア科目	東歯大	東歯大講師
3月9日(金)	13:30-16:30	地域連携と摂食支援	コア科目	日歯大	日歯大講師
3月16日(金)	13:30-16:30	アドバンス病態科学	独自科目	東医歯大	大渡

### 【東北大学 異分野連携イノベティブ歯学展開コース】

コア科目・大学別科目 授業日程

日 程		授業題目	授業種別	大学名	担当教員
6月7日(水)	13:00-16:10	歯学発の医療機器・技術イノベーション	独自科目	東北大	佐々木・鈴木・高田
6月14日(水)	13:00-16:10	口腔から始まる再生医療	独自科目	東北大	福本・江草
6月28日(水)	13:00-16:10	口腔が支える食と健康	独自科目	東北大	若森・笹野・高橋・服部
7月5日(水)	13:00-16:10	異業種連携で進化する口腔ケア・リハビリテーション	独自科目	東北大	小関・服部
7月12日(水)	13:00-16:10	社会と医療を繋ぐ歯科情報倫理	独自科目	東北大	小坂・鈴木
10月10日(火)	8:50-10:20	異分野融合型先端歯学・歯科医療	コア科目	東北大	佐々木
10月17日(火)	8:50-10:20	異分野融合型先端歯学・歯科医療	コア科目	東北大	高橋
10月24日(火)	8:50-10:20	摂食嚥下のメカニズム①	コア科目	新潟大	新潟大講師
10月31日(火)	8:50-10:20	摂食嚥下のメカニズム②	コア科目	新潟大	新潟大講師
11月7日(火)	8:50-10:20	地域連携と摂食支援①	コア科目	日歯大	日歯大講師
11月14日(火)	8:50-10:20	地域連携と摂食支援②	コア科目	日歯大	日歯大講師
11月21日(火)	8:50-10:20	テイラード・コミュニケーション概論①	コア科目	東歯大	東歯大講師
11月28日(火)	8:50-10:20	テイラード・コミュニケーション概論②	コア科目	東歯大	東歯大講師
12月5日(火)	8:50-10:20	長寿を支える硬組織バイオロジー①	コア科目	東医歯大	東医歯大講師
12月12日(火)	8:50-10:20	長寿を支える硬組織バイオロジー②	コア科目	東医歯大	東医歯大講師

### 【新潟大学 口腔機能管理学コース】

コア科目・大学別科目 授業日程

日 程	授業題目	授業種別	大学名	担当教員	
10月3日(火)	16:25-17:55	ガイダンス、口腔リハビリテーション①	独自科目	新潟大	前田・井上
10月10日(火)	16:25-17:55	口腔リハビリテーション②	独自科目	新潟大	井上
10月17日(火)	16:25-17:55	口腔機能の変化とその対応①	独自科目	新潟大	山村
10月24日(火)	16:25-17:55	地域包括ケアと多職種連携①	独自科目	新潟大	大内
10月31日(火)	16:25-17:55	口腔機能の変化とその対応②	独自科目	新潟大	山村
11月14日(火)	16:25-17:55	地域包括ケアと多職種連携②	独自科目	新潟大	大内
11月21日(火)	16:25-17:55	口腔関連の感染症と多職種連携による管理①	独自科目	新潟大	寺尾
11月28日(火)	16:25-17:55	口腔関連の感染症と多職種連携による管理②	独自科目	新潟大	寺尾
12月5日(火)	16:25-17:55	成長過程にある口腔機能の発達とその管理①	独自科目	新潟大	早崎
12月12日(火)	16:25-17:55	成長過程にある口腔機能の発達とその管理②	独自科目	新潟大	早崎
1月9日(火)	16:25-17:55	地域連携と摂食支援	コア科目	日歯大	日歯大講師
1月23日(火)	16:25-17:55	テイラード・コミュニケーション概論	コア科目	東歯大	東歯大講師
1月26日(金)	13:30-16:30	摂食嚥下のメカニズム	コア科目	新潟大	井上
1月30日(火)	16:25-17:55	長寿を支える硬組織バイオロジー	コア科目	東歯大	東歯大講師
2月6日(火)	16:25-17:55	異分野融合型先端歯学・歯科医療	コア科目	東北大	東北大講師
2月13日(火)	16:25-17:55	試験	独自科目	新潟大	小野・村上
2月20日(火)	16:25-17:55	試験(予備)	独自科目	新潟大	小野・村上

### 【日本歯科大学 地域連携ケアコース】

コア科目・大学別科目 授業日程

日 程	授業題目	授業種別	大学名	担当教員	
8月8日(火)	16:40-18:00	異分野融合型先端歯学・歯科医療	コア科目	東北大	羽村
8月9日(水)	16:40-18:00	長寿を支える硬組織バイオロジー	コア科目	東歯大	羽村
8月17日(木)	16:40-18:00	摂食嚥下のメカニズム	コア科目	新潟大	羽村
8月18日(金)	16:40-18:00	テイラード・コミュニケーション概論	コア科目	東歯大	羽村
8月21日(月)	16:40-18:00	多職種共同に必要なコミュニケーション	独自科目	日歯大	有友
8月22日(火)	16:40-18:00	摂食機能の発達と障害	独自科目	日歯大	町田
8月23日(水)	16:40-18:00	栄養の評価と指導	独自科目	日歯大	須田
8月24日(木)	16:40-18:00	地域連携と摂食支援①	コア科目	日歯大	高橋
8月25日(金)	16:40-18:00	地域連携と摂食支援②	コア科目	日歯大	菊谷

### 【東京歯科大学 地域社会に学ぶ新たな歯科医療プロフェッショナルコース】

コア科目・大学別科目 授業日程

日 程	授業題目	授業種別	大学名	担当教員
12月12日(火)	4限	長寿を支える硬組織<第2学年>	コア科目	東歯大
10月5日(木)	3限	テイラード・コミュニケーション概論<第3学年>	コア科目	東歯大
10月12日(木)	3限	テイラード・コミュニケーション概論<第3学年>	コア科目	東歯大
10月19日(木)	3限	テイラード・コミュニケーション概論<第3学年>	コア科目	東歯大
10月26日(木)	3限	テイラード・コミュニケーション概論<第3学年>	コア科目	東歯大
11月27日(月)	5限	摂食嚥下のメカニズム<第3学年>	コア科目	新潟大
1月12日(金)	5限	地域連携と摂食支援<第4学年>	コア科目	日歯大
1月19日(金)	3~5限	実践コミュニケーションと臨床倫理①<第4学年>	独自科目	
11月20日(月)	1~2限	実践コミュニケーションと臨床倫理②<第4学年>	独自科目	
4月10日(月)	5限	内科症候学①<第4学年>	独自科目	
4/15~9/22	期間中3時間	内科症候学②(全3回)<第5学年>	独自科目	
11/17、12/1(金)	3限	口腔機能と生体制御①<第4学年>	独自科目	
4/15~3/6	期間中3時間	口腔機能と生体制御②(全3回)<第5学年>	独自科目	
9/25~3/6	期間中3時間	臨床社会歯科学(全3回)<第5学年>	独自科目	
4/15~3/6	期間中3時間	歯科患者の全身異常と初期救急対応(全3回)<第5学年>	独自科目	
3月13日(火)	1限	異分野融合型先端歯学・歯科医療<第5学年>	コア科目	東北大

—東京医科歯科大学—

時間割番号: 021202

# 長寿口腔健康科学コース

担当教員

開講時期

後期

対象年次

5

単位数

2

10回×3コマ  
(講義8回、グループワーク2回)

## 構成ユニット

長寿を支える硬組織バイオロジー  
地域包括ケアシステム論  
在宅における摂食嚥下評価 1  
在宅における摂食嚥下評価 2  
健康長寿の医療政策学・経済学  
アドバンス病態科学  
異分野融合型先端歯学・歯科医療  
テイラード・コミュニケーション概論  
地域連携と摂食支援  
摂食嚥下のメカニズム

## モジュールの単位判定

- 1) 授業開始前にカードリーダーにタッチ
- 2) 授業中のラージ記入
- 3) 授業後のWEBCLASSでアンケート回答

それぞれ1/3出席。ただしアンケート回答のみは欠席とする。  
(指定座席に着席することとし、目視にて指定座席に長時間いない場合は欠席とする)

## 主な講義場所

第4講義室

## 授業の目的、概要等

< 授業全体 >

健康長寿に対する先進的研究開発、教育の面からのアプローチができる人材及び地域医療の中で多職種連携を主導することができる人材養成を目標とし、他大学講義を含む全10回の講義で、健康長寿に関連する多岐に渡る領域について学ぶ。

< 長寿を支える硬組織バイオロジー >

硬組織バイオロジーに関する知識を統合整理し、長寿社会における歯科医療の位置付けを確認する。

< 地域包括ケアシステム論 >

未曾有の超高齢化を目の前にして、今後わが国は後期高齢者が激増する。同時に認知症患者や独居高齢者、老夫婦のみの世帯も激増すると推測される中、我が国の医療政策がまさに今問い直されている。すなわち、幅広い視点から医療・介護提供体制を大きく進化させていく時期に来ている。

高齢者の健康寿命を延ばすため、自助・共助・互助の精神の下、健康増進を普段から心掛け、経済活動・地域活動への参加を促すことによって高齢者自身も社会の支え手とする社会システムが求められる。さらに、たとえ自立度レベルが低下し要介助になった後でも、心を委ねられた医療人が横に寄り添う姿が必要であり、同時に医療介護の円滑なシステムと療養生活環境システムの両面サポートが存在することにより、はじめて「Aging in Place/ Aging in Community(できる限り元気で、住み慣れた街で弱っても安心して暮らす)」が達成される。よって、今後の医療制度改革は医療関係者の「意識改革」そのものと言っても過言ではない。今後、全国の様々な地域において目に見えるこれらの活動が実際に生まれ、そしてその地域に根付き、最終的には次の世代へ引き継がれることになって初めて意味のあるものになる。そのために、真の『地域包括ケアシステム』とは何かを理解する必要がある。それを達成するために、それまでの背景、その意義、今後の動向などを十分踏まえた上で、改めて若い歯科医療専門職として

何を見据え、何をすべきかを熟慮し、視野の広い歯科医療人を目指して欲しい。

#### <在宅における摂食嚥下評価>

摂食嚥下障害の診察や評価、対応、更には在宅訪問診療のあり方を考えることを目的とする。

#### <健康長寿の医療政策学・経済学>

口腔健康科学は統合科学であり、その社会的応用として歯科医療が位置づけられる。しかし、その歯科医療の基礎となる背景に医療政策・制度・経済がある。そこで本授業では歯科医学・医療と制度の橋渡しを目指して、医療政策・経済について、その基礎を理解することを目的とする。具体的には、「健康寿命の延伸」、「国民医療費の構造」、「医療保険制度の仕組み」、「地域包括ケアシステム」、「医科歯科連携」など今日的なテーマを医療政策・経済学の視点から学習する。

#### <アドバンス病態科学>

超高齢社会を迎え、わが国の医療はさまざまな問題に直面している。チーム医療(多職種連携)は、この複雑な問題解決のための有用な方策であり、医療の質的向上とサービスの効率的提供を目的としている。我々歯科医療従事者が多職種連携を主導するkey playerのひとりになるためには、(歯科以外の)医師を始めとする医療従事者と共通の臨床医学的知識を基盤として、(歯科医療の)専門家としての議論が可能でなければならない。本授業では、多彩な全身疾患を合併する患者のシナリオを、TBLに準拠した形式で議論することにより、病態の理解、ならびに臨床検査データの理解と評価を可能にし、有病高齢者の観血的処置における合理的なリスク管理方法を立案できるようにするのが目的である。なかでも、今後の歯科臨床あるいは医歯学融合教育を行う上で必須の臨床検査データの理解に重点を置く。

#### <異分野融合型先端歯学・歯科医療>

将来の歯学・歯科医療の方向性の一つとして、異分野融合型の歯学およびそれに基づいた歯科医療のあり方について考察し、理解を深める。

#### <テイラード・コミュニケーション概論>

臨床実習の場では、患者の訴えを漏れなく汲み取り、診断と実施すべき診療方法を患者に伝えて理解を得、そして治療に協力をしてもらうとともに、患者に必要な保健行動を実践してもらわねばならない。そこで、診療参加型臨床実習で適切な患者対応を行うために、コミュニケーションに関する知識、技能、態度を修得することを目的とする。

#### <地域連携と摂食支援>

要介護高齢者に対する歯科訪問診療と摂食嚥下支援を行うために必要な知識を習得する。

#### <摂食嚥下のメカニズム>

正常な咀嚼・嚥下運動の遂行を担う生体機能を知る。

種々の疾患が引き金となって生じる摂食嚥下障害に対する臨床への興味につなげる。

## ■ 授業の到達目標

#### <授業全体>

- 1) 今後、歯科医師として健康長寿社会の達成に貢献することの必要性を理解する。
- 2) 健康長寿社会の達成に、歯科医師が貢献できることについて理解する。
- 3) 健康長寿社会の達成には歯科領域だけでなく、多面的なアプローチが必要であることを理解する。

#### <長寿を支える硬組織バイオロジー>

- 1) 骨構成細胞(破骨細胞、骨芽細胞、骨細胞)の役割と機能を説明できる。
- 2) ロコモティブ症候群と治療法を説明できる。
- 3) 骨発生と遺伝子疾患の分子メカニズムが説明できる。

#### <地域包括ケアシステム論>

- 1) 我が国の高齢者医療を取り巻く背景と、国の推し進める『地域包括ケアシステム』を理解する
- 2) 従来の「治す医療」から『治し支える医療』という原点の理解: その象徴的存在である在宅医療の意義と歯科の関わりを理解する
- 3) 「病人である前に『生活者』なのである」という理念の下に、住み慣れた街全体で生から死までを地域全体で支え、みて(診て・看て)いくという地域完結型の医療への進化を理解する
- 4) 新たな大学-地域間連携を構築しながら、地域医療にも視野を広げられる若手医療人の養成・早期医学教育にも触れる
- 5) より早期からの虚弱予防戦略を早期の段階から学ぶ: 特に『オーラル・フレイル(口腔機能の虚弱化)』から再考する

#### <在宅における摂食嚥下評価>

- 1) 摂食嚥下障害のアセスメントを覚える
- 2) 摂食嚥下障害のスクリーニングテストができる
- 3) 摂食嚥下障害患者への対応を考えることができる

#### <健康長寿の医療政策学・経済学>

- 1) 超高齢社会の問題点を概説できる。

- 2)平均寿命と健康寿命との差が拡大していることを説明できる。
- 3)国家財政の圧迫と国力の低下について概説できる。
- 4)医療費や介護給付費等の社会保障負担の増大を説明できる。
- 5)長寿社会における解決策を政策提言できる。

#### <アドバンス病態科学>

- 1)歯科医療における(歯科領域以外の)臨床医学的知識の必要性を説明できる。
- 2)臨床的重要性が高い全身疾患の病態について説明できる。
- 3)臨床検査データの意味を理解し、その結果から各全身疾患の個体レベルでの評価ができる。
- 4)有病高齢者の安全な観血的歯科治療を行うためのリスク管理について正確な医学的知識を背景に立案できる。

#### <異分野融合型先端歯学・歯科医療>

- 1)異分野融合型の歯学について説明できる。
- 2)先端歯科医療について説明できる。
- 3)将来の歯学・歯科医療のあり方について、自ら具体的に考察できる。
- 4)将来の歯学・歯科医療の変革や改善について、積極的に取り組む姿勢を持つ

#### <テイラード・コミュニケーション概論>

- 1)医療面接を説明する。
- 2)コミュニケーション技法・カウンセリング技法を説明する。
- 3)ラポール形成に必要な態度を説明する。

#### <地域連携と摂食支援>

- 1)在宅療養患者における特徴を述べる。
- 2)在宅診療の留意点を記述する。
- 3)摂食支援の実際を知る。
- 4)摂食嚥下機能の評価方法を説明する。
- 5)摂食嚥下機能の精密検査法を述べる。
- 6)摂食機能療法の計画・立案を説明する。

#### <摂食嚥下のメカニズム>

- 1)摂食運動に関わる諸器官の構造と機能を説明する。
- 2)咀嚼と嚥下運動の機能意義を説明する。

### ■ ■ 準備学習等についての具体的な指示

#### <健康長寿の医療政策学・経済学>

健康長寿社会に向けて、社会保障制度改革国民会議が公表した報告書の意義について考える。そこで、医療のみならず介護・福祉分野も含めて社会保障の意義及び政策についても事前に学習しておくことが望まれる。特に社会保障と国民経済、医療保険制度・介護保険制度・公費負担医療制度、社会福祉制度の基本的な枠組みと制度改革の課題について予習して欲しい。

### ■ ■ 参照ホームページ

<http://dentistry-education.net/index.html>

— 東 北 大 学 —

授業科目	アドバンスⅣ (口腔病態科学Ⅰ)		授業担当	○高橋 信博 真柳 弦 口腔生化学分野 課題解決型高度医療人材養成プログラム			
授業細目	イノベティブ基礎歯学 コース		責任者				
曜日・時限	火- 1	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	A1講義室 B3実習室	科目番号	DDE-DEN813J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的:健康長寿を育むためのあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療について理解する。</p> <p>概要:5大学連携事業である課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」のコア科目を中心に講義を行う。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標:将来の歯学・歯科医療のあり方について、具体的に考察できる。</p> <p>個別目標:①異分野融合型の歯学および先端歯科医療について説明できる。 ②正常な咀嚼・嚥下運動の遂行を担う生体機能について理解する。 ③要介護高齢者に対する歯科訪問診療と摂食嚥下支援を行うために必要な知識を習得する。 ④適切な患者対応を行うためのコミュニケーションに関する知識、技能、態度を習得する。 ⑤硬組織バイオロジーに関する知識を統合整理し、長寿社会における歯科医療の位置づけを確認する。 ⑥スポーツ歯学、周術期の歯科医療について理解する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	課題解決型高度医療人材養成プログラムが目指すこと				東北大学 真柳 弦	
	2	異分野融合型先端歯学・歯科医療:先端的歯科医療とは				東北大学 佐々木 啓一	
	3	異分野融合型先端歯学・歯科医療:異分野融合型歯学とは				東北大学 高橋 信博	
	4・5	摂食嚥下のメカニズム				新潟大学	
	6・7	地域連携と摂食支援				日本歯科大学	
	8・9	テイラード・コミュニケーション概論				東京歯科大学	
	10・11	長寿を支える硬組織バイオロジー				東京医科歯科大学	
	12・13	スポーツ歯学				東北大学 口腔システム補綴学分野	
14・15	周術期の歯科医療				東北大学病院 周術期口腔支援センター		
アドバイス	講義の内容、順番及び講義室は、都合により変更されることがある。						
予習・復習	講義担当者より別途指示される場合があるので、それに従うこと。						
テキスト・教材・参考書等	講義担当者より別途指示される場合があるので、それに従うこと。						
成績評価の方法	出席、レポート等から総合的に判断する。 連絡先:真柳 弦 genm@dent.tohoku.ac.jp						

—新潟大学—

科目名：口腔機能管理学

担当教員：前田 健康, 大内 章嗣, 山村 健介, 井上 誠, 早崎 治明, 寺尾 豊, 岩瀬 陽子

開講番号：170DS515

開講学期：第2学期

対象学部等：歯学部歯学科5年生

#### 【科目概要】

東京医科歯科大学、東北大学、東京歯科大学、日本歯科大学、新潟大学の5大学は、国立私立の枠を超えてコンソーシアムを形成し、各大学の強みである教育資源を共有・補完することで、健康長寿を育むためのあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療を担う人材養成を目指している。本授業は、このコンソーシアムが提供するeラーニングによるコア科目と、対面講義による新潟大学個別科目の2つで構成される。

#### 【科目のねらい】

地域包括ケアを理解し、多職種連携・地域協働により活躍できる歯科医療人材、摂食機能のリハビリテーションを通して、摂食と嚥下機能の連関を理解し、地域社会で食機能支援ができる人材の養成を目標としている。

#### 【学習の到達目標】

##### ■ コア科目（2コマ×5回 eラーニング）

- |                    |          |
|--------------------|----------|
| ・摂食嚥下のメカニズム        | 新潟大学     |
| ・長寿を支える硬組織バイオロジー   | 東京医科歯科大学 |
| ・異分野融合型先端歯学・歯科医療   | 東北大学     |
| ・ティラード・コミュニケーション概論 | 東京歯科大学   |
| ・地域連携と摂食支援         | 日本歯科大学   |

##### ■ 新潟大学個別科目（2コマ×5回 対面講義）

- 【1】口腔関連の感染症と多職種連携による管理 担当：寺尾 豊  
・健康長寿社会の実現を妨げる、口腔に関連する感染症を説明する。  
・多職種連携による口腔健康の維持管理について説明する。

- 【2】口腔機能の変化とその対応 担当：山村健介  
・フレイルの概念と予防法を説明する。  
・加齢に伴う口腔の感覚・運動機能の変化を説明する。  
・口腔機能の評価法と意義、およびその内容を説明する。

- 【3】成長過程にある口腔機能の発達とその管理 担当：早崎治明  
・哺乳・離乳から咀嚼へのステップを説明する。  
・乳歯列期の顎口腔機能の特徴を説明する。  
・顎口腔機能の正常な発達を妨げる要因とその対処を説明する。

- 【4】口腔リハビリテーション 担当：井上 誠  
・口腔機能や摂食嚥下機能に障害をもたらす疾患を列挙し、その病態像を説明する。  
・摂食嚥下機能に関わる種々の検査法とその内容を説明する。  
・口腔機能や摂食嚥下機能の障害に関する診断にもとづいて適切な治療を選択する。

- 【5】地域包括ケアと多職種連携 担当：大内章嗣  
・地域包括ケアの概念とそのなかで歯科専門職が果たすべき役割を説明する。  
・地域包括ケアに関わる職種や関係機関の役割を説明する。  
・要介護者の生活支援の観点からの多職種協働のプロセスを説明する。

#### 【学習方法・学習上の注意】

eラーニングと対面講義を行う。コンソーシアム提供のeラーニングは、東京医科歯科大学のWebClass上にて公開されるため、あらかじめ配布されたIDを用いて各自視聴し、自己学習を行う。決められた日時までに自己学習が終了しなかった場合は、講義日に共同視聴を行う。視聴後はショートレポートの提出にて、学習の確認を行う。

#### 【授業計画】

##### ■ コア科目（2コマ×5回 eラーニング）

他大学分については、WebClass上にて公開されるため各自視聴し、自己学習を行う。

- |                 |          |
|-----------------|----------|
| 摂食嚥下のメカニズム      | 新潟大学     |
| 長寿を支える硬組織バイオロジー | 東京医科歯科大学 |
| 異分野融合型先端歯学・歯科医療 | 東北大学     |

■ 新潟大学個別科目（2コマ×5回 対面講義）

- 【1】口腔関連の感染症と多職種連携による管理 寺尾 豊  
口腔フローラの変遷と変化に伴う種々の感染症について学ぶ。つぎに、それら口腔感染症と全身へ波及する感染症について、我が国の罹患動態と現在の治療法、および克服すべき課題と多職種連携による管理法等について学ぶ。
- 【2】口腔機能の変化とその対応 山村健介  
加齢に伴う口腔の感覚・運動機能の変化とその評価方法、これらの機能変化がもたらす身体への影響を学ぶ。また加齢に伴う生理的予備能の低下の予防法についてサルコペニアを例として学ぶ。
- 【3】成長発育過程にある口腔機能の発達とその管理 早崎治明  
哺乳のメカニズム、離乳から卒乳、また食育の目指すものについて学ぶ。
- 【4】口腔リハビリテーション 井上 誠  
種々の疾患や加齢に伴う口腔機能や摂食嚥下機能の障害に対する臨床的アプローチについて、機能障害をもたらす原因疾患と特徴的な病態像ならびに種々の検査・診断・リハビリテーションを中心とした治療までを包括的に学ぶ。
- 【5】地域包括ケアと多職種連携 大内章嗣  
地域包括ケアの背景および概念とこれに関わる様々な専門職種、関係機関の役割について学ぶとともに、その中で歯科専門職に期待される役割について考察する。また、ロールプレイによる事例検討を通じて、多職種協働による生活支援のプロセスおよび歯科専門職の関わりについて理解を深める。

■ 日程

10/3 (火) (5限)	ガイダンス (前田健康)
	新潟大学個別科目 【4】口腔リハビリテーション① (井上)
10/10 (火) (5限)	新潟大学個別科目 【4】口腔リハビリテーション② (井上)
10/17 (火) (5限)	新潟大学個別科目 【2】口腔機能の変化とその対応① (山村)
10/24 (火) (5限)	新潟大学個別科目 【5】地域包括ケアと多職種連携① (大内)
10/30 (火) (5限)	新潟大学個別科目 【2】口腔機能の変化とその対応② (山村)
11/14 (火) (5限)	新潟大学個別科目 【5】地域包括ケアと多職種連携② (大内)
11/21 (火) (5限)	新潟大学個別科目 【1】口腔関連の感染症と多職種連携による管理① (寺尾)
11/28 (火) (5限)	新潟大学個別科目 【1】口腔関連の感染症と多職種連携による管理② (寺尾)
12/5 (火) (5限)	新潟大学個別科目 【3】成長過程にある口腔機能の発達とその管理① (早崎)
12/12 (火) (5限)	新潟大学個別科目 【3】成長過程にある口腔機能の発達とその管理② (早崎)
12/26 (火) (5限)	予備日
1/9 (火) (5限)	コア科目 (他大学分) 共同視聴①
1/23 (火) (5限)	コア科目 (他大学分) 共同視聴②
1/30 (火) (5限)	コア科目 (他大学分) 共同視聴③
2/6 (火) (5限)	コア科目 (他大学分) 共同視聴④
2/13 (火) (5限)	試験
2/20 (火) (5限)	試験 (予備日)
日程未定	コア科目 (新潟大学：摂食嚥下のメカニズム) (井上)

【成績評価の方法と基準】

筆記試験により、「到達目標」に対する達成度で評価する。他大学担当コア科目の内容も出題されるので注意すること。

筆記試験での得点をもとに、下記の基準で合否を判定する。

- 秀 (100～90点)：授業科目の目標を超えている。  
優 (89～80点)：授業科目の目標に十分に達している。  
良 (79～70点)：授業科目の目標に照らして一定の水準に達している。  
可 (69～60点)：授業科目の目標の最低限を満たしている。  
不可 (59点以下)：授業科目の目標に達していない。

【使用テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

各回の授業で担当教員が指示する。

【関連リンク】

東京医科歯科大学 WebClass  
<http://lib02.tmd.ac.jp/webclass/login.php/>

【キーワード】

健康長寿 歯学教育コンソーシアム eラーニング 食機能 歯科医療人材育成

— 日本歯科大学 —

# 健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム

月～金曜日  
16:40～18:00

## 本学期的学習目標 (GIO)

超高齢社会のさらなる進展に伴い、大きく変化する医療現場において、全人的医療を担うチームの一員として適切かつ効果的に行動できる歯科医療人となるために、東京医科歯科大学、東北大学、新潟大学、東京歯科大学、日本歯科大学の5大学が連携して形成した歯学教育コンソーシアムの教育コンテンツを利用し、健康長寿を育むためのあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療を理解する。

## 教科書・参考書

著者・編集	書名	版	出版社

## 担当者一覧

羽村 章, 菊谷 武, 須田牧夫, 高橋賢晃, 町田麗子, 有友たかね, その他コンソーシアム校担当教員

## 成績評価

出欠状況, 受講態度, 期末試験, レポート等

## オフィスアワー

日時: 授業日

場所: 授業終了後, 講義室にて

授業日	担当者	ユニット番号: 名 学習目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)
8月8日	羽村 章 (東北大学)	ユニット1: 異分野融合型先端歯学・歯科医療 先端の歯科医療とは GIO: 将来の歯学・歯科医療の方向性の一つとして, 異分野融合型の歯学およびそれに基づいた歯科医療のあり方について考察し, 理解を深める。	1) 異分野融合型の歯学について説明できる。 2) 先端歯科医療について説明できる。 3) 将来の歯学・歯科医療のあり方について, 自ら具体的に考察できる。 4) 将来の歯学・歯科医療の変革や改善について, 積極的に取り組む姿勢を持つ。
8月9日	羽村 章 (東京医科歯科大学)	ユニット2: 長寿を支える硬組織バイオロジー GIO: 硬組織バイオロジーに関する知識を統合整理し, 長寿社会における歯科医療の位置付けを確認する。	1) 骨構成細胞 (破骨細胞, 骨芽細胞, 骨細胞) の役割と機能を説明できる。 2) ロコモティブ症候群と治療法を説明できる。 3) 骨発生と遺伝子疾患の分子メカニズムが説明できる。
8月17日	羽村 章 (新潟大学)	ユニット3: 摂食嚥下のメカニズム (1) GIO: 正常な咀嚼・嚥下運動の遂行を担う生体機能を知り, 種々の疾患が引き金となって生じる摂食嚥下障害に対する臨床への興味につなげる。	1) 摂食運動に関わる諸器官の構造と機能を説明する。 2) 咀嚼と嚥下運動の機能意義を説明する。 3) 摂食運動に関わる末梢器官とその働きを説明する。 4) 摂食運動に関わる中枢神経系の役割を述べる。 5) 摂食運動に対する口腔機能他の周辺機能の重要性を述べる。
8月18日	羽村 章 (東京歯科大学)	ユニット4: テイラード・コミュニケーション概論 GIO: 診療参加型臨床実習で適切な患者対応を行うために, コミュニケーションに関する知識, 技能, 態度を修得する。	1) 医療面接を説明する。 2) コミュニケーション技法・カウンセリング技法を説明する。 3) ラポール形成に必要な態度を説明する。
8月21日	有友たかね	ユニット5: 多職種協働に必要なコミュニケーション GIO: 地域歯科保健で各職種と連携を取るために保健, 医療, 福祉, 介護の各職種の役割, 連携の必要性を, 講義とe-learningで習得する。	1) 高齢者に対する保健, 医療の制度について述べる。 2) 福祉, 介護における各職種の役割を述べる。 3) 地域歯科保健での各職種の連携の必要性を説明する。 4) 情報共有の在り方を習得する。

授業日	担当者	ユニット番号：名 学習目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)
8 月 22 日	町田 麗子	ユニット6：摂食機能の発達と障害 GIO：障害児・者の摂食嚥下障害を評価するために、発達期における摂食嚥下障害とは何かを知り、中途障害や機能減退との違いを、講義とe-learningで理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂食嚥下に関する解剖学的・生理学的基礎知識について、小児と成人の違いを比較する。</li> <li>2) 摂食嚥下機能の発達について述べる。</li> <li>3) 摂食嚥下機能の原因について分類する。</li> <li>4) 摂食嚥下機能の疾患別特徴と症状について説明する。</li> </ol>
8 月 23 日	須田 牧夫	ユニット7：栄養の評価と指導 GIO：高齢者の栄養状態を知り、その管理方法を理解するために必要な知識を、講義とe-learningで習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者の栄養状態を述べる。</li> <li>2) 咀嚼機能・嚥下障害・栄養状態の関連を述べる。</li> <li>3) 高齢者の栄養管理の方法を述べる。</li> </ol>
8 月 24 日	高橋 賢晃	ユニット8：地域連携と摂食支援 (1) GIO：要介護高齢者に対する歯科訪問診療と摂食嚥下支援を行うために必要な知識を、講義とe-learningで習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅療養患者における特徴を述べる。</li> <li>2) 在宅診療の留意点を記述する。</li> <li>3) 摂食支援の実際を知る。</li> <li>4) 摂食嚥下機能の評価方法を説明する。</li> <li>5) 摂食嚥下機能の精密検査法を述べる。</li> <li>6) 摂食機能療法の計画・立案を説明する。</li> </ol>
8 月 25 日	菊谷 武	ユニット9：地域連携と摂食支援 (2) GIO：要介護高齢者に対する歯科訪問診療と摂食嚥下支援を行うために必要な知識を、講義とe-learningで習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅療養患者における特徴を述べる。</li> <li>2) 在宅診療の留意点を記述する。</li> <li>3) 摂食支援の実際を知る。</li> <li>4) 摂食嚥下機能の評価方法を説明する。</li> <li>5) 摂食嚥下機能の精密検査法を述べる。</li> <li>6) 摂食機能療法の計画・立案を説明する。</li> </ol>

—東京歯科大学—

「地域社会に学ぶ新たな歯科医療プロフェッショナルコース」  
(東京歯科大学)

コミュニケーション能力の涵養のために模擬患者を資源とする場合が多い。模擬患者に求められているのは“標準的”でいかなる状況でも“再現性”の高い対応ができることである。コミュニケーション技法に対する評価の標準化という点で優れているものの、診療の現場で遭遇する“個性”をもった患者に対して、好ましい態度で、状況を判断した上で対応する能力を身に着ける訓練には対応しきれていない。このような能力の修得には、文部科学省の支援を受け我々が取り組んでいる Patient Community (P-Com)のメンバーによる学生教育が適している。P-Com メンバーは歯科医学教育への協力を賛同して登録された患者や父兄会会員などで構成され、学生教育の現場において、ある幅の範囲の“個性”を有し、状況により異なる対応をして頂いている。このような様々な個性のある患者に対する単なる技法を超えたコミュニケーション能力を我々は“テイラード・コミュニケーション”と名づけている。コミュニケーション学は1年次から実施しており、“標準的”な患者への対応技法は十分に訓練される。2年次以降 P-Com メンバー参加のコミュニケーション学を順次増やし、それぞれに“個性”をもった個々の患者に対応できる歯科医師の養成教育となっている。個々の患者の narrative を重視し、様々な患者が持つ希望や社会環境に対応するべく、臨床倫理の手法に基づく症例検討を行い、EBMとNBMを踏まえた総合診療計画の立案能力の向上を図る。

また、本学は付属病院の一つに 23 診療科 570 床の市川総合病院を有し、臨床実習において幅広い医学的知識の習得とチーム医療の参加型実習を行ってきた。1981 年にはオーラルメディスン・口腔外科学講座が設立され、医療全体の中での歯科医療の重要性に注目した教育と研究も実践してきた。また、幅広い医学教育を目的に、医師である教員によるマルチメディア教材を使用した臨床講義・実習を行ってきた。その実績を活かして新たに 4,5 年次に生体制御機構からみた内科症候学の講義と実習を構築し、全身的な評価を行うことができる知識と態度を涵養する。そのために、全身管理に必要な知識・技能・態度の効率的・効果的な習得を支援するためのスキルス・ラボを構築し、全ての学生に歯科診療に際して理解しておくべき医科の典型的な症例を疑似体験させることで高いレベルでの教育効果を実現するものである。口腔と全身との関わり、高齢者や医学的問題点を有する患者等への対応などを疑似体験しながら、臨床現場での実習と組み合わせることにより効率的・効果的な学習を推進する。

更に、安心・安全な歯科医療の提供のためには、歯科患者の全身異常に対する適切な初期救急対応の知識と技能が必須であるので、臨床実習中に PBL、ロールプレイ、シミュレーション試験、フィードバック講義の要素を組み込んだ「歯科患者の全身異常と初期救急対応」実習を行う。

## 独自科目(東京歯科大学)

授業科目	実践コミュニケーションと臨床倫理 (第4学年)
担当者	平田 創一郎 教授, 橋本 正次 教授
<b>授業の目的、概要等</b>	
<p>「医療面接」 歯科医師として、好ましいコミュニケーションの確立は歯科医療の実践において必須のことである。さらに、臨床実習の場では患者の訴えを漏れなく汲み取り、診断と実施すべき診療方法を患者に伝え理解を得ることで治療に協力をしてもらおうとともに、患者に必要な保健行動を実践してもらうためにはコミュニケーション技法に基づいた医療面接を適切に行わなくてはならない。ここでは、医療面接のさらなる向上を図るべく実習を通して体験し、来るべき臨床実習に備えることを目的としている。</p> <p>「医療倫理」 医師・歯科医師をはじめ、医療に携わるものは医療人として自らを律するとともに、社会のもとめる医師としてあるべき態度と行動をとることが求められている。さらに患者、国民の人権尊重が近年とみに重きを増している。これらの医師・歯科医師に求められる医療倫理を学習するのがこの教科である。</p>	
<b>授業の到達目標</b>	
<p>「医療面接」 1) 医療面接を説明できる。 2) カウンセリング技法を説明できる。 3) ラポール形成ができる。 4) 初診時の医療面接を実践する。 5) 患者の気持ちに共感する。 6) 推定診断を行うために必要な事項を抽出できる。</p> <p>「医療倫理」 1) 臨床倫理の考え方を説明する。 2) 患者の嗜好について検討する。 3) 患者の QOL について検討する。 4) 患者の周囲の状況について検討する。 5) 患者の医学的適応について検討する。 6) 症例について臨床倫理の4分割法を用いて検討する。</p>	
<b>授業題目・対象学年・授業計画</b>	
<p>第4学年後期 コミュニケーション学「医療面接」 1/12 3・4・5 限</p> <p>第4学年後期 歯科医療管理学「医療倫理」 11/20 1・2 限</p>	
<b>成績評価の方法や基準</b>	
<p>1) 観察記録(総括的評価) ロールプレイ・PBL 時の取組状況を評価する。</p> <p>2) レポート(総括的評価) PBL で作成したレポートで評価する。</p> <p>3) 総合学力試験(総括的評価) 多肢選択試験にて、総括的評価を行う。</p>	
<b>その他</b>	

## 独自科目(東京歯科大学)

授業科目	内科症候学
担当者	西田 次郎 教授 林 晃一 教授 村松 和浩 教授、寺嶋 毅 教授 野村 武史 教授
<b>授業の目的、概要等</b> <p>口腔の異常・疾患と全身のそれは密接に関連する。口腔疾患は全身に影響を及ぼし、全身の異常は口腔疾患を発生・増悪させる。内科学は臨床医学の基礎である。臨床医学は内科学から生まれ外科学、小児科学、整形外科学、皮膚科学…と分化した。内科学は脳神経、循環器、呼吸器、消化器、腎・泌尿器、内分泌、血液、代謝・糖尿病、感染、アレルギー・免疫および救急医学と全身をあつかう。内科学は主に体内臓器の器質的・機能的異常や疾患を対象とする。それらの原因・病態を明らかにしながら診断をし治療を行い、患者の健康を回復・維持さらに増進させる。内科では、近年内視鏡やカテーテル技術を用いた処置や手術も頻繁に行われるが、基本的には薬物を用いて治療する。</p> <p>内科学においては、系統的講義および市川総合病院における臨床実習を通して担当者と学生がともに考えながら、歯科医として必要かつ十分な知識を習得する。さらに歯科診療上役に立つことのみでなく、医療当事者として知っておくべき事項を広く学ぶことを目的とする。</p>	
<b>授業の到達目標</b> <p>内科学、内科医療、加齢・老年病学および下記の各分野の病態生理・疾患を理解し概説できる。 1脳神経、2循環器、3呼吸器、4消化器、5腎・泌尿器、6内分泌、7代謝・糖尿病、8血液、9感染、10アレルギー・免疫、11救急</p>	
<b>授業題目・対象学年・授業計画</b> <p>第4学年通年 内科学 4/10 5時限 第5学年前期 臨床実習(市川総合病院) 4/15～9/22 実習期間中3時間(班別)</p>	
<b>成績評価の方法や基準</b> <p>1)レポート(総括的評価) 実習中に作成したレポートで評価する。 2)総合学力試験(総括的評価) 多肢選択試験にて、総括的評価を行う。</p>	
<b>その他</b>	

独自科目(東京歯科大学)

<p>授業科目</p>	<p>口腔機能と生体制御</p>
<p>担当者</p>	<p>石田 瞭 教授 一戸 達也 教授 野村 武史 教授</p>
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・実習・グループ討議などを通じて、摂食嚥下リハビリテーションに関する基本的知識と技能を総合的に修得する。</li> <li>・健常者の歯科医院内での歯科診療(初期医療)ではなく、通院不能となった患者の在宅での歯科診療(終末期医療)の存在を知り、患者に対する強い責任感と歯科医療に対する情熱を有する本当のかかりつけ歯科医を目指すためのモチベーションをつける。</li> <li>・歯科を受診する患者のほとんどは歯を中心とした口腔に関する主訴を有しているが、その診断と治療には口腔内のみを対象とするだけでは完全とはいえず、患者の全身の状態を診ることが必要である。全身疾患を考えながら口腔疾患の診断と治療が進められるように、全身疾患および口腔疾患についてそれぞれの基礎と病態およびその関連を理解する。</li> </ul>	
<p><b>授業の到達目標</b></p> <p>摂食嚥下障害について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)概念と主な原因を説明する。 2)生体に与える影響と摂食嚥下リハビリテーションの必要性を説明する。</li> <li>3)摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科医師と他職種との連携について説明する。</li> <li>4)解剖学的・生理学的知識を説明する。 5)摂食嚥下機能の健全な発達と老化の過程について説明する。</li> <li>6)診断に必要な診察および検査項目を説明する。 7)診断に必要な基本的診察および検査項目を実施する。</li> <li>8)患者の機能訓練、栄養法および嚥下補助装置について説明する。 9)患者の基本的な機能訓練および栄養法を実施する。</li> <li>10)摂食嚥下機能獲得障害者(障害児、口唇口蓋裂患者)の摂食嚥下障害の特徴を説明する。</li> <li>11)摂食嚥下機能中途障害者(脳疾患、神経・筋疾患患者、悪性腫瘍術後患者など)の摂食嚥下障害の特徴を説明する。</li> <li>12)摂食嚥下リハビリテーションにおける危機管理について説明する。</li> </ol> <p>訪問歯科について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)診療の対象者を説明する。 2)診療の対象者の身体的・心理的特徴を列記する。 3)歯科訪問診療の特徴を説明する。</li> <li>4)歯科訪問診療時に発生する全身偶発症とその対応を説明する。 5)歯科訪問診療における地域連携システムについて説明する。</li> <li>6)歯科訪問診療における歯科衛生士の役割を説明する。 7)歯科訪問診療における保険制度を説明する。</li> <li>8)歯科訪問診療の患者に対し、身体的・心理的特徴に応じた態度をとる。</li> </ol>	
<p><b>授業題目・対象学年・授業計画</b></p> <p>第4 学年後期 口腔健康科学 11/17・12/1 3 時限</p> <p>第5 学年 臨床実習(市川総合病院) 4/15～3/6 実習期間中3 時間(班別)</p>	
<p><b>成績評価の方法や基準</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)レポート(総括的評価) 実習中に作成したレポートで評価する。</li> <li>2)総合学力試験(総括的評価) 多肢選択試験にて、総括的評価を行う。</li> <li>3)観察記録(形成的評価) 技能については、観察記録により形成的評価を行う。</li> </ol>	
<p><b>その他</b></p> <p>※スキルス・ラボを活用した実習</p>	

## 独自科目(東京歯科大学)

授業科目	臨床社会歯科学
担当者	平田 創一郎 教授, 眞木 吉信 教授
<b>授業の目的、概要等</b>  社会歯科学は、社会の側から歯科医療に対して提起された問題を、歯科医療の側から解決していこうとするものであり、歯科医療を外 部から観察していくところに特徴がある。 歯科医師として必要な社会歯科学的知識を、臨床実習の現場である市川総合病院の掲示物等を教材として具体的に学ぶ。	
<b>授業の到達目標</b>  1 医事法制について説明する。 2 医療関連職種について説明する。 3 医の倫理について概説する。 4 患者の権利・自己決定権を説明する。 5 地域医療連携・チーム医療について説明する。 6 薬事衛生法規について説明する。 7 保健衛生法規について説明する。 8 予防衛生法規について説明する。	
<b>授業題目・対象学年・授業計画</b>  第5 学年後期 臨床実習(市川総合病院) 9/25～3/6 実習期間中(3 時間)	
<b>成績評価の方法や基準</b>  1)レポート(総括的評価) 実習中に作成したレポートで評価する。 2)総合学力試験(総括的評価) 多肢選択試験にて、総括的評価を行う。	
<b>その他</b>	

## 独自科目(東京歯科大学)

授業科目	歯科患者の全身異常と初期救急対応
担当者	一戸 達也 教授、野村 武史 教授、鈴木 昌 教授
<b>授業の目的、概要等</b>  歯科を訪れる患者は、性・年齢・職業・生活環境等を問わないばかりか、中にはいろいろの医科疾患を合併している場合が少なくないため、医療事故防止のためには歯科治療に際しては局所のみならず全身的な管理も必要である。とくに高齢者・有病者・障害者外来歯科治療における全身管理は重要なものとなる。	
<b>授業の到達目標</b>  1) 意識障害のレベルを評価できる。 2) 心停止の徴候を説明できる。 3) Basic Life Support (BLS)と Advanced Life Support (ALS)の違いを説明できる。 4) 気道確保の方法を説明できる。 5) 胸骨圧迫の方法を説明できる。 6) 人工呼吸の方法を説明できる。 7) 除細動の方法を説明できる。 8) おもな救急薬品の適応を説明できる。	
<b>授業題目・対象学年・授業計画</b>  第5学年前期 臨床実習(歯科麻酔科) 4/15～9/22 第5学年後期 臨床実習(市川総合病院) 9/25～3/6 実習期間中(3時間)	
<b>成績評価の方法や基準</b>  1)レポート(総括的評価) 実習中に作成したレポートで評価する。 2)総合学力試験(総括的評価) 多肢選択試験にて、総括的評価を行う。	
<b>その他</b>  ※スキルス・ラボを活用した実習	